

して、沢に入る。

ヌマゴヤ沢までは30分程の河原歩きである。ヌマゴヤ沢出合は、ヌマゴヤ沢の反対側からも沢が入り、四叉路のようになっている。地図上には小さな凹みとしてしか記載されていない沢である。沢の荒れ方からして、新しくできた沢だろう。

ヌマゴヤ沢出合を過ぎて、いよいよ本格的に遡行を開始する。初めは河原歩きであるが、左岸から小沢が入るところから沢相は一変する。きれいなナメ床とナメ滝が私達を迎えてくれた。F₂(8m)は左岸を搦く。慣れた者なら、直登も可能だろう。

さらにナメは続き、やがて両側が切り立って沢幅は急に狭まる。ここからが本谷の核心部だろう。F₄(2m)を越しさらに進むと、左岸から7m程の滝をとまなうて沢が入る。水量もまあまあで、相当な迫力がある。川床からして左が本流である。

沢幅はさらに狭まり、F₅、F₆と連続して滝がかかる。両足を思いっきりひらいてなんなく越す。次に沢は左にカーブし、みごとなトイ状の滝(F₇)にでくわす。階段状になっていて、比較的登りやすい。後日、この沢にきた女の子がこの滝でいきずまってしまい、ショルダで登ったということである。多少のバランスと足の長さは必要とされるかもしれない。

F₈は4mと小さいが特徴のある滝で、直登を挑んで岩の間にザックがはさまってしまったメンバーがいた。右岸をへつれば、ぬれないですむ。F₁₂を過ぎるとあとは滝はなく、水量もぐっと少なくなる。

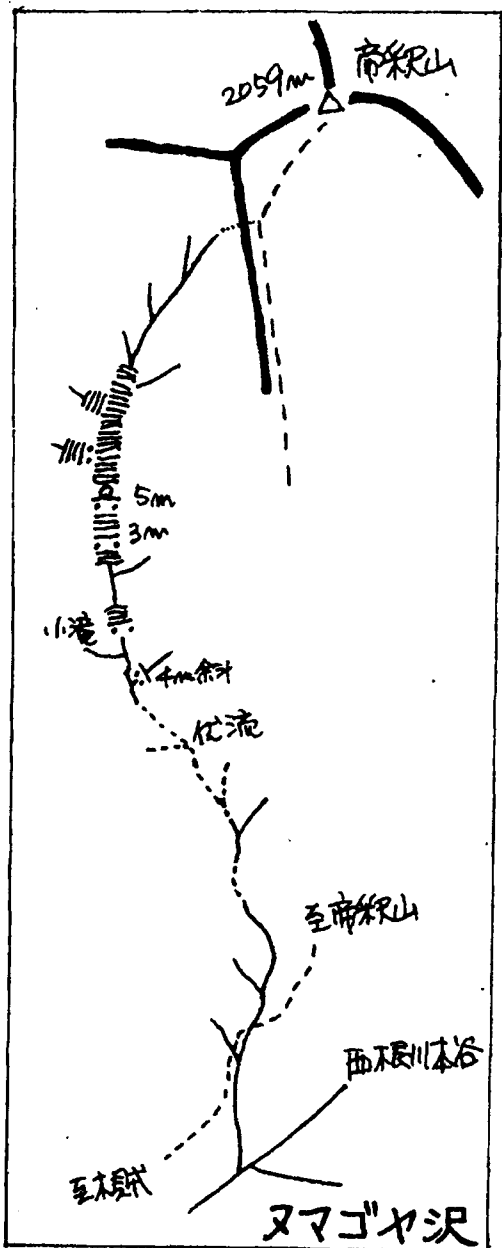
上部の二俣までくると、右沢に多少の水が流れているだけで、左沢の方は水が溜れてしまう。私達は左の尾根の登山道に出る予定なので、カレ沢を最上部までつめる。10分のヤブこぎで、帝釈山への登山道に出る。

この沢は、下部は沢があばれるためか、大変な荒れ方である。上部は、変化に富んだ滝が続き、楽しい。また、初心者でも充分登ることができる。アプローチの長いのが欠点だが、充分楽しめる沢である。 (記)

[タイム] 林道ゲート(7:25)→田代山登山口(7:55)→細木沢出合(8:30)→ヌマゴヤ沢出合(9:10)→沢終了(11:05)→登山道(11:15)

1985年9月7日
ヌマゴヤ沢
L

西根川本谷の遡行終了後、標高1900mの平坦地まで下り、ヌマゴヤ沢の下降を開始する。すぐに源頭に降り立つ。いくつかの沢を合わせると、川床がナメとな



る。右岸からナメ床をもった沢を2つ合わせ、5m程のチョックストーン滝を過ぎ、ナメが終わると変化のない沢となる。

下降を開始して1時間程で、沢は伏流となってしまう。露出した川床は、岩がゴロゴロし、所々ヤブがかぶさって歩きづらい。本谷の印象が強かっただけに、尾根1本違うと、沢の様相はこれほどまでに異なるものかと感心する。

沢に水が戻っても、倒木などが沢を堰き止めて相変わらず歩きづらい。石がつかまって急勾配になっているところを降りると、登山道と出会う。ここで下降終了とし、あとは登山道を歩いて帰る。

(記・

[タイム] 下降開始(11:55)→登山道・下降終了(13:30)

細木沢左俣・中俣

1985年9月7日

L

宮里林道ゲートに車を置いて、林道を1時間10分歩くと細木沢出合。出合からは50m奥にある堰堤が見えている。

堰堤を越えると広い河原になり、沢は大きく右に曲がる。右岸に枝沢2本を分けると、沢身は狭まる。出合から40分程

で7m3段滝が現われた。左岸には40m程の高さの岩があり、見事に調和している。

9:15二俣着。左俣に入る。左俣はゴルジュとなり、期待に胸をときめかせる。しかし釜や淵がなく、水量は膝下か足首程度であり、迫力に欠ける。5mおよび4mと続く滝はシャワーで登る。4mの滝を過ぎると視界が広がり、兩岸とも50m以上のガレ場となる。左岸に枝沢を1本分けた後、5mの滝がガレ場の中にか